

西洋古典学研究室論文投稿規定

松浦高志（修士課程 2 年）

2006 年 6 月 29 日

はじめに

この規定は、論文集を少ない労力で迅速に出すためのものです。論文を作成 / 提出する前に必ず確認してください。編集者の作業を軽減するためにも、規定に書かれていることを必ず守るようお願いいたします。

論文集は L^AT_EX (pL^AT_EX 2_ε) を用いて組版 (typesetting) します。この規定も L^AT_EX を用いて組版されています。見出し、章・節番号等の体裁、脚注の組み方^{*1}などの参考にしてください。

この投稿規定に関する意見、質問は 1 のサポートページに、編集（組版）作業に関する質問は 2 のメールアドレスまでお願いします。

1. <http://glc.l.u-tokyo.ac.jp/pukiwiki/>
2. tmatuura@glc.l.u-tokyo.ac.jp (松浦高志)

1 原稿

論文は電子原稿化してください^{*2}。

定義 原稿の種類を以下のように定義します。

ワープロ原稿 ワープロで作成したファイル

印刷原稿 ワープロ原稿を紙に印刷したもの

テキスト原稿 ワープロ原稿をテキスト形式のファイルに変換したもの

ただ「原稿」とだけ記した場合は上に記した全ての原稿を指すこととします。また「電子原稿」とは「テキスト原稿」と「ワープロ原稿」(およびワープロ原稿を作成する際に使った画像ファイルなど)を指します。

*1 注は原則的に脚注形式で組版します。後注の場合はご相談ください。

*2 電子原稿化できない場合はご相談ください。

編集の際にはテキスト原稿のみを用い、印刷原稿はレイアウトなど、テキスト原稿に反映されない部分を目で確認するためだけに用います*3。ワープロ原稿は使用しません*4。

注意 テキスト原稿を用意する際は、以下の点にご注意ください。

- 「テキスト形式」とは、いわゆる「リッチテキスト形式」ではなく、「プレーンテキスト形式」です。「リッチテキスト形式」のファイルは組版作業に使用することができません。
- ワープロによっては、テキスト形式のファイルに変換する際に脚注を省略してしまいます。テキスト原稿が正しく作成されているかどうか、必ずチェックしてください。

2 提出

定義 提出の締切を以下のように定義します。

一次締切 査読用原稿の提出締切

二次締切 編集用原稿の提出締切

査読がない場合は、二次締切のみとなります。

提出物 それぞれの締切に応じて、以下のものを提出してください。

一次締切 印刷原稿

二次締切 (赤字書きした)印刷原稿、ワープロ原稿、テキスト原稿

提出形態 印刷原稿は持参/郵送し、電子原稿は以下の形態で提出してください。データの信頼性と簡便さから、上の2つをお勧めします。

- メールに添付
- CD-R(W)
- フロッピーディスク
- MO

次の点にご注意ください。

- メールで提出する場合は、テキスト原稿も含めて全て添付ファイルにしてください*5。添付の際、可能ならば.zip、.lhz、.tar.gz形式で圧縮してください*6。

*3 原則として文書の論理構造を元にレイアウトを決定します。そのため、印刷原稿・ワープロ原稿の体裁を無理に仕上りの印刷物に近づける必要はありません。むしろ、組版作業の手間を軽減するためこの規定を優先させるようご協力をお願いします。

*4 ただし、緊急の際に使用する可能性がありますので、提出リストに含まれる場合は必ず提出してください。

*5 本文に記載されたテキストを自動的に改行してしまうメールクライアントが存在します。

*6 Macintosh の.sit形式は避けてください。OSによっては解凍できません。

- フロッピーディスクのフォーマット形式は、可能ならば Windows の形式 (FAT) にしてください。
- ドライブによっては大容量の MO を扱うことができません。640MB 以下のディスクを使用してください。
- ファイル名には拡張子をつけて、file.txt のようにし、ファイルの形式が一目でわかるようにしてください。
- ファイルの名称とその内容のリストを一緒に提出してください。メールに添付した場合はメールの本文に記載し、その他の場合は印刷したリストを添えて提出してください。

注意 提出の際には以下の点にご注意ください。

- 二次締切の際に提出された原稿は返却しません。いずれもコピーをとり、手元に保管してください。特に、赤字書き (第 3 節参照) した印刷原稿のコピーをとっておくことをお勧めします。著者校正の時に役立ちます。
- 使用した OS^{*7}、使用したワープロソフトとそのバージョンをお知らせください。ギリシア語を使用した場合はフォント名もお知らせください^{*8}。
- 画像を張り付けた場合は、元の画像も一緒に提出してください。
- 提出した原稿の間で相違がないようにし、あればその旨必ず連絡してください。特に査読の後の二次締切で提出する原稿に関しては十分注意してください。

L^AT_EX での原稿提出 L^AT_EX で原稿を作成した場合は、それぞれ以下の原稿を提出してください。

一次締切 印刷原稿

二次締切 電子原稿

この場合、「電子原稿」とは .tex ファイル等を指します。以下の点に注意してください。

- .log ファイル等があるともしもの時に役立ちます。コンパイルの際にできたファイルと一緒に .tex ファイルを提出するのが一番安全です。
- 外部ファイルを読み込んでいれば忘れずに提出してください。
- スタイルファイル、マクロを使用していれば忘れずに提出してください。それらが衝突を起こす場合、また文字数変更や版面のサイズ指定など体裁に関わるもの場合は編集者の判断で外させていただきます。
- 使用していないデータは添付しないでください。現場での判断に時間がかかります。

^{*7} Mac OS X Tiger 10.4、Windows XP など。

^{*8} ギリシア語の組版についての情報収集のため。UTF-8 コードを使用した場合、その旨知らせて頂ければフォント名の情報は省略できます。

3 印刷原稿への赤字書き

組版原稿を作成する際は、印刷原稿を参照しながらテキスト原稿をコピー＆ペーストしていきませんが、印刷原稿にあってテキスト原稿に反映されない指示を見落とす可能性があります。

そのため印刷原稿上で、以下の部分に赤字書き（赤で下線を引く、赤で注意書きを加える）してください。

1. 主にレイアウトに関するもの
 - 段落間の大きな切れ目を表すために、空行を挿入した箇所^{*9}
 - 字下げをしていない引用文^{*10}
2. 多言語
 - アクセントなどのついた文字（ドイツ語のウムラウトなど）を含む単語、文
 - ギリシア語
3. 書体に関わるもの
 - ゴシック体・イタリック体・ボールド体など、明朝体・ローマン体でない部分
 - （見出しなどを除いた本文中で）文字の大きさを変えた部分^{*11}
 - ルビ、添字、圏点（傍点）、アンダーライン
4. 文字コードに関わるもの（上の多言語の場合を除く）
 - JIS 漢字コード（JIS 第 1 水準、第 2 水準）で規定されていない漢字や記号^{*12}
 - 丸付数字などの特殊文字
 - 日本語のダブルクォート
 - 日本語・欧文のダーシ（ダッシュ）
5. その他
 - 本文に付されている脚注番号
 - 全角スペース^{*13}

4 美しい文書を作るために

きれいに組版するためには、一定のルールに従って文字を入力する必要があります。特に記号等（約物）には注意が必要ですので、以下に注意点をまとめます。なお、「全角」「半角」の用語は既

^{*9} 空白の大きさについてはお任せください。なお、その空行がページの始めか終わりにきた場合には省略されてしまいますので、できるだけ見出しをたてることをお勧めします。

^{*10} 引用文は字下げして組版します。

^{*11} 論文集の体裁、他の論文との兼ね合いを考え、具体的な大きさは編集者が決定します。

^{*12} 漢字については、はしご型の「高」などの異体字を使用する場合は必要ありません。使用する際はできるだけ欄外に Unicode (UTF-8) のコード番号、または Adobe-Japan1-5 の CID 番号を書き添えてください。

^{*13} 一般に段落の始めや引用文の字下げなどには（全角）スペースは用いず、インデント機能を使います。

知とし、ただ「スペース」とだけ記した場合は「半角スペース」を指すこととします。

4.1 数字、記号等

- 漢数字以外の数字とアルファベットは全て半角にしてください。一桁の数字、一文字のアルファベットも全て半角です^{*14}。
- 世紀や年号、巻・章・節・行の表記にはアラビア数字を用いることを原則とします^{*15}。
- ローマ数字は、英文字の「アイ」、「ブイ」などを使い、全角文字（時計文字）は使わないでください^{*16}。
- 半角カナは使用できません^{*17}。和文用の記号で半角のもの（半角のかぎ括弧など）も使用してはいけません。
- 和文中に欧文を混ぜる場合、その前後に半角スペースは挿入しないでください^{*18}。

句読点 和文中では「、」と「。」を用いてください^{*19}。和文中に欧文単語が入っており、前後がアルファベットになっている場合でも半角の「、」は使わないでください。少し詳しく言うと、「和文中に挿入された欧文が一つの『文』と解釈される場合、その欧文に属する句読点は欧文用のものを用います。Hart's Rules [3] に載っている格言によれば、'place punctuation according to sence.' ということです。ただし判断が難しい場合も多くありますので、細かい点は編集者にお任せください。

括弧（パーレン） 和文中の括弧は中身が欧文の場合でも全て全角を用いてください。欧文中で、かつ中身も欧文の場合に半角の括弧を用いてください。

かぎ括弧 かぎ括弧を入れ子にする場合は、奇数番目は一重かぎに、偶数番目は二重かぎにしてください^{*20}。

コーテーション コーテーションを入れ子にする場合は、奇数番目はシングルに、偶数番目はダブルにしてください^{*21}。

改行記号 韻文や写本、パピルス等で改行の記号を使う必要がある場合、|^{*22}を用いてください。なお、単語中で改行されていない限り、その前後に半角スペースを挿入してください。

*14 この規定に違反した原稿が多く見られます。

*15 ローマ数字は、特に必然性がある場合を除いては使わないことを原則とします。

*16 時計文字は機種依存文字（OSが変わると正しく表示されない）ですので、絶対に使用しないでください。

*17 半角カナも機種依存文字です。

*18 この規定に違反した原稿が多く見られます。自分のワープロ上できれいに見えなくても、半角スペースは挿入しないでください（注*3 参照）。

*19 「、」と「。」が使用されている場合は編集の際に全て「、」と「。」に置換します。

*20 「……『……「……」……』……」、『文字の組み方ルールブック』[1, 9 ページ] 参照。

*21 「“…‘…’…”…」。

*22 または「/」。

校訂記号 主要な校訂記号、韻律の記号は使用できます。もっとも複雑と思われるパピルスの場合も、概ね可能です。校訂記号を用いた箇所には赤字書きしてください。

音引き 論文中である程度^{*23} 一貫していれば構いません。ただし、使用する場合は信頼できる辞書で音引きを必ず確認してください^{*24}。

省略記号 第 6 節を参照してください。

4.2 字体、強調

ワープロの制約で出力できなかった字体、特殊効果を使用したい場合は、その箇所に赤字書きした上で、欄外に注記を書き加えてください。

アンダーラインは使わないことを原則とします^{*25}。強調の仕方については以下のそれぞれの項目を参照してください。

4.2.1 欧文

欧文には以下の字体と特殊効果が使えます。右は組版の際に使うフォント名（とその字体見本）です。強調の際は *italic*, **bold face**, San Serif が使えます。イタリック体中の強調文字は、イタリックボールド体、またはローマン体で組版します。

ローマン体 Computer Modern Roman

イタリック体 *Computer Modern Italic*

ボールド体 **Computer Modern Roman Bold**

サンセリフ体 Computer Modern San Serif

タイプライタ体 Computer Modern Typewriter Type

Small Caps SMALL CAPS

ゲシュペルト体 aaaaaaaaa a a aaaaaaaaa

4.2.2 和文

明朝体とゴシック体が使えます。強調の際は、ゴシック体が強調圏点^{*26} を使います。

^{*23} 例えば、「慣用になっているものはそれに従う」という方針ならば、「ソクラテス」と「トゥーキューディデース」、「アテナイ」と「ローマ」が混在していても構いません。「プラトーン」と「ソクラテス」などの混在はあまり美しくないで、できるだけ一貫させてください。

^{*24} 音引きの間違いが多く見られます。

^{*25} 使う場合は制限がありますので、ご相談ください。

^{*26} 傍点（、）は横組では普通用いませぬ。『文字の組み方ルールブック』[1, 12 ページ] 参照。

和文 引用箇所（巻・節・行など）は（ ）で囲みません。また、巻・章・節などは頭に「第」をつけてください。

キケロ 『善と悪の究極について』 第1巻第23節
ホメロス 『イリアス』 第1巻234行

5.2 写本・パピルス

古典作家の場合に準じます。パピルス名の記述方法はLSJを標準とします。

123r.4
P.Col. 1234 col. II.3-10

5.3 二次文献等

文献表を作らない場合は以下の点に注意してください。

- ‘op. cit.’ や「前掲書」などは使用しないでください。代わりに ‘Vlastos (n. 9), 245’ のようにします。
- 引用文献が多い場合は、文献表を作ることをご検討ください。脚注の文字サイズは本文中より小さくなっていますので、一つの脚注に多数の文献を引用すると非常に見づらくなってしまいます。

文献表を作る場合は以下の点に注意してください。

- 文献表を作る場合、論文内では著者名（及び必要ならば年号あるいは略題）のみで引用できます。
- 書籍の引用ページは文献表には書かず、論文の中で引用する際に書いてください^{*29}。
- 原著と訳書を両方引用する場合は原則的に項目を分けて、それらが上下に並ぶように書きます。
- 同じ著者が続く場合、欧文の場合——で、和文の場合は二倍ダッシュで省略できます。——などは、著者の姓名（およびその省略のためのピリオド）をそのまま置き換えたものだと思って使ってください（後の Syme の例をご覧ください）。

5.3.1 形式

二次文献等の引用の場合は、

*29 本の中の論文についてはこの限りではありません。

- 著者名・書名・発行地・発行年（書籍の場合）
- 著者名・論文名・編者名・書名・発行地・発行年・掲載ページ（書籍掲載論文の場合）
- 著者名・論文名・雑誌名（号数・発行年）掲載ページ（雑誌掲載論文の場合）

を書きます。それぞれの項目は‘,’（書名等が欧文の場合）、「、」（書名等が和文の場合）で区切りま
す*30。和文の場合、「発行地」は「発行所」に読みかえます。

欧文 以下は欧文の場合の例です。

R. Syme, *The Roman Revolution*, Oxford, 1939.

—, *Tacitus*, Oxford, 1958.

A. S. F. Gow, *Theocritus*², Cambridge, 1952.

G. R. F. Ferrari (ed.), T. Griffith (tr.), *Plato: The Republic*, Cambridge, 2000.

D. Sedley, ‘Philosophical Allegiance in the Greco-Roman World’, M. Griffin, J. Barnes (edd.),
Philosophia Togata, Oxford, 1989, pp. 97–119.

R. P. Winnington-Ingram, ‘The Danaid Trilogy’, *JHS* 81 (1961), 141–52.

RE 8.54–8.

注意 欧文の二次文献等を引用する場合は、以下の点に注意してください。

- 雑誌の略号については、原則的に *L’Année philologique* の形式に従います。
- 一般的になっている略号は、断り無しに使用できます（e.g. *OCD*², *LSJ*。注意：書名からの略号はイタリック体、人名からのそれはローマン体）。
- 欧文の場合、書名等の区切り文字は次の優先順位で使用してください。
 1. :
 2. ,
- 著者名を複数並べるときは、原則的にコンマのみで区切ります*31。
- 訳などの場合は、(tr.), (trr.), (ed.), (edd.), (com.), (comm.), (rev.) などを著者名の後に付記してください。原則的に、書名の後にそれらを表す文章はつけません*32。編集者が団体の場合は (ed.) をつけないでください。
- 書名等イタリック体中の強調文字は、イタリックボールド体、またはローマン体で組版します。
- ‘pp.’ は書籍の中の論文の場合に用い、雑誌の場合は用いないでください。
- 発行地が複数あるときは、‘/’ で区切ります。

和文 以下は和文の場合の例です。

*30 引用された文献の表記は一つの「文」とみなしますので、本文とは関係なく書名等で使う記号を判断します。

*31 A, B and C または A, B, and C、またはそれらの and を & に置き換えた記法を用いることもあります。

*32 edited with notes and … の類の文章。

逸身喜一郎、『ギリシャ・ローマ文学 韻文の系譜 』、放送大学教育振興会、2000年。
細井敦子、桜井万里子、安部素子(訳・解説)、『リュシ阿斯弁論集』、京都大学学術出版会、2001年。
桜井万里子、「ある銀行家の妻の一生 前四世紀アテナイの女性像 」、地中海文化を語る会、
『ギリシア・ローマ世界における他者』、彩流社、2003年、204-239。
安西眞、「祝勝歌の1人称単数」、『西洋古典学研究』38(1990年) 16-29。

注意 和文の二次文献等を引用する場合は、以下の点に注意してください。

- 和文の場合、副題がある時は次の優先順位で区切り文字を使ってください。
 1. (書名) (副題)
 2. (書名) (副題)
 3. (書名) (副題)^{*33}
- 著者名を複数並べるときは、原則的にコンマのみで区切ります。
- 訳などの場合は(訳・解説)などを著者名の後に付記してください。
- 「ページ」(和文中)は書籍の中の論文の場合に用い、雑誌の場合は用いないでください。
- 発行所が複数あるときは、「/」で区切ります。

6 欧文略語

欧文略語を使用する際は、以下の点に注意してください。

- 原則的にラテン語で統一し、なるべくイタリック体ではなく、ローマン体を用います。
- アルファベット小文字一文字 - ピリオドの繰り返しの場合、その間にスペースは入れないでください(例：e.g., i.e., s.v.)
- アルファベット大文字から成る省略語は、ピリオドをつけないで並べてください(例：NB, OED)

6.1 一覧

AD 数字の前に置くのが正しい用法です。原則として Small Capital で組版します。

ad loc.

BC 数字の後に置くのが正しい用法です。原則として Small Capital で組版します。

ca. c. より ca. の方が望ましいです。

cf.

com(m).

ed(d).

*33 全角スペースです。

e.g. e. と g. の間にスペースは挿入しません。
et al. et al. のようにローマン体でも構いません。
f. ff. はなるべく用いず、12–34 のように範囲を明示してください。
fol. folio.
ibid., id. 多用しないことが望まれます。
i.e.
i.q.
l(l). line, lines は用いないでください。
ms(s), MS(S) 大文字の場合ピリオドは省略します。
n(n). n. 1 のように用います。ページ数と一緒に用いる場合、どちらかで一貫していれば p. 23n という記述でも p. 23n という記述でも構いません。
u.i. ut infra.
u.s. ubi/ut supra.
NB 間にピリオドは入れません。
p(p).
q.v.
rev.
seq(q). ff. と同じ理由で、seqq. はなるべく用いず、できるだけ範囲を明示してください。
s.v.
tom. tomus.
tr(r).
vid.
v(v). versus.
vol(l).

7 組版の規則

以下は編集の際の規則です。必要に応じて参照してください^{*34}。

- 引用文は行頭を字下げして組版します。
- 数字の範囲を表す記号は、アラビア数字の場合 ‘–’ (二分ダッシュ、en-dash)^{*35} を、漢数字の場合「～」を用います。
- 欧文の挿入語句の前後に用いるダッシュは全角相当です^{*36}。前後にスペースは挿入しません。

^{*34} L^AT_EX で原稿を提出される方はできるだけ目を通してください。

^{*35} L^AT_EX では -- と記述します。

^{*36} ただし、和文で用いるダッシュとは異なります。L^AT_EX では --- と記述します。

- 和文の挿入語句の前後に用いるダッシュは二倍ダッシュです*37。
- 言い切らずに終わる場合や、省略する際は二倍リーダー（……）を用います*38。列挙の際の省略の場合は一倍リーダー（ああ、…、おお）を使います。
- 欧文のリーダーは‘…’を用います*39。文のフルストップと重なる場合は‘…’と点が4つになります*40。
- l., ll, p., pp., n., nn. などと次にくる数字の間では行を分割しません*41。
- 省略記号としての‘.’の後のスペースは、文の後のスペースではなく、通常の単語間のスペースになります*42。古典作家名、作品名の省略記号の‘.’の場合も同じです。省略語がイタリック体になっている場合はピリオド自体も（一応）イタリック体です。
- 日本語の論文副題等は二倍ダッシュで両側を囲みます。

参考文献

- [1] 日本エディタースクール、『文字の組み方ルールブック ヨコ組編』、日本エディタースクール出版部、2001年。
- [2] 日本エディタースクール、『校正記号の使い方』、日本エディタースクール出版部、1999年。
- [3] Oxford University Press, *Hart's Rules for Compositors and Readers at the University Press Oxford*, Oxford, 1983³⁹.
- [4] オックスフォード大学出版局、小池光三（訳）、『オックスフォード大学出版局の表記法と組版原則』、ダヴィッド社、1983年。
- [5] The University of Chicago Press, *The Chicago Manual of Style*, Chicago, 1993¹⁴.

*37 L^AT_EX では okumacro.sty の \- - を用います。

*38 中黒（・・・）は使いません。

*39 L^AT_EX では \dots と記述します。

*40 3つのままにする流儀もあります。

*41 L^AT_EX では ~ という、途中での改行を禁止した半角スペースを出力するコマンドを用いて 1.~12--34 と記述します。

*42 L^AT_EX では、例えば ‘LSJ s.v._1.’ のように記述します